

アグリカレッジで若手農業者を育成 ～若手農業者の農業知識の理解と仲間づくり～

十勝農業改良普及センター 担い手担当

1 活動対象及び概要

(1) 活動対象



(2) 活動の概要

講座は、全対象者が受講する共通講座と経営形態に応じて選択受講する専門講座を組み合わせ実施。農業経営者に必要な心構えや知識を身に付けるため、指導農業士等の農業者、J A及び市町村と1年間を通して協同で活動を展開した。

講座の構成とお題

	共通講座	専門講座	
		農産コース	酪農コース
1回目	先輩農業者の経験談 土壌断面調査、診断	野菜直売 (視察研修)	草地の見方など
2回目	農業機械と農作業安全 農家経済	畑作物栽培の 実際	サイレージの基 礎、TMR
3回目	先輩農業者との意見交換	畑作物の栽培 基礎Ⅰ	生乳の取り扱い
4回目		畑作物栽培の 基礎Ⅱ	飼料用コーンに ついて

※斜字太字：講師は指導農業士などの農業者

2 背景・ねらい

(1) 活動の背景

農業を担う後継者や女性農業者等への農業生産技術の習得や経営管理能力の向上、情報交換の場の提供や支援が求められている。

(2) 活動のねらい

上記活動対象に、農業経営者として必要な農業及び農村生活に関する基礎的な知識・技術を身につける講座を開設して、幅広い視野を持つ積極的な農業の担い手を育成する。また、同じ境遇にいる農業者同士が、地域を越えて悩みを相談できる仲間づくりを支援する。

3 活動の経過

(1) 基礎的な知識・技術の習得

前年度のアンケートを加味し、受講生が実践的に学べるような講師選定や講座の開催方式を検討した。その結果、土壌の基礎講座では座学から断面調査による実習へ変更、またサイレージの講座ではTMRセンターの視察を通じて実践的な理論を学んだ。

(2) 新型コロナウイルス感染防止策を徹底した集合形式による活動の展開

できる限り集合形式による開催に向けて準備を行った。講師や会場提供者には意思確認を行い、受講生には受講する条件を設定し周知を図った。当日は検温の体制整備、マスク着用およびソーシャルディスタンスの徹底を図った。



図1 ソーシャルディスタンスとマスクで受講

4 活動の成果

満足度 目標100% → 実績99.2%

100%に届かなかった要因



資料や講座に対する受講生の声

【今後の課題】

◎受講生のレベルに合わせた資料づくりや説明を意識する必要あり。

◎講師の資質向上には、日頃から積極的な普及活動への参画と周囲のサポートが必要。

◎受講生同士の交流の場を求める声がある
→社会情勢に対応した機会の検討が必要。

感染リスク低減対策を講じ、

ほとんどの講座を集合形式で開催！

その結果、

受講生の理解度がアップ↑

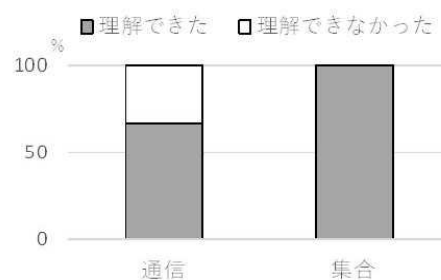


図2 開催方法と理解度（共通講座）

5 今後の対応

- (1) 講師となる普及員の資質向上。
- (2) 社会情勢に対応した交流機会の設定。
- (3) 次年度も可能な限り集合形式による開講を目指す。